

アガペ

日本社会事業大学同窓会北海道支部【(2015年8月15日発行 第12号)】

(事務局・仁木町大江2-457大江学園内 0135-32-3662)

【特別寄稿 2回連続のその1】

元同窓会会長 野村 健さんを偲ぶ

—知恵おくれと共に生きるまちづくり—

北海道同窓会前会長 山崎忠顕

日社大OBとして活躍された野村健さんは、北海道では、「健さんを抜きにして日社大を語ることはできない」と言われたほどの人である。のちに北海道で初めて木田賞を受賞する等、母校との関わりもとても深かった。

筆者が野村さんと初めてお会いしたのは札幌市中央福祉事務所で、今からちょうど50年前の1965年4月のことである。野村さんは32歳、筆者は他校を卒業して間もない22歳であった。当時の札幌市は人口の増加が著しく、特に保育に欠ける児童の限られた保育所への利用希望者が文字どおり殺到していた。

今でも耳に残り、忘れられないことがある。それは、福祉事務所内で健さんと呼ぶ「お客さんだよ」、「電話が来ているよ」、「こっちにも電話だよ」の声が絶え間なく続いていたこと。その騒音ともいうべき中を走り回っている健さんの、一見特徴とも言うべき「はぁ〜い」という間延びした声が、所内を飛び交っていた。3年間、児童福祉担当者として筆者が定員増され、健さんには公私を問わずお世話になった。

生きるとは何か、仕事とは何か、人とは、福祉とは何か、人生とは何か、何が大事か、何が本質か。結局この3年間は、福祉・哲学という人間としての在り方等を議論してきたことを思い出す。

生活保護係長をしていた37歳の健さんが、「このたび余市町の向こうに障害のある人たちの施設を造ろうと思っているのだけど、山崎も札幌市を辞めて一緒に手伝ってくれないか」と誘われた。当時筆者は27歳であった。

「勘当する」とは、「親子の縁を切って追い出すこと」と、辞書にはこのような説明が載っている。まさに札幌市役所を辞め、「余市町の向こう」で先輩を手伝い、障害者の施設造りの応援をしたいと、札幌市で同居する両親に伝えたときの言葉が「勘当」であった。これに対して健さんは、家族に誠意ある言動をもって説得してくれた。ところで銀山には借家がなく、奥さんと小さな子ども3人は商店の2階を間借りし、それまで健さんと筆者は学園の空き部屋に住み込んだ。

銀山学園の開設にあたっては様々な課題があった。筆者は事務長を兼務していたが、約1億円の借金とその返済のための資金繰りは常にギリギリで、大きな課題となっていたのしかかってくる。寝ている最中に返済の納付書が頭をよぎり、突然ガバッと跳ね起きて、周りをびっくりさせたことも何度もあった。

いよいよ昭和45（1970）年5月から、利用者さんの入所募集が始まった。健さんは、事務長（筆者）と当時の指導課長に、次のようなことを指示した。

「入所希望の理由には、本人及びご家族にも緊急な事情があることだろう。銀山学園は道内16番目の入所施設であり、要望が相当に多いと思われる。そこで人道的に放置されている利用者本人とか、悪い環境に置かれている人たちを順にして、少しでもその問題の解消を図っていきたい」と。

要するに困っている人から順に施設を活用していただくという方針であった。精神薄弱者（当時の表現）が街を歩いていると、不審者として警察か消防署に電話が行った時代、今では笑い話としてでしか信じられないが、一般社会では特に精神薄弱児・者への偏見は想像を絶していた。結果として約400名の希望者の中から2年間で140名の利用をしていただくこととなった。

ところで、銀山学園が建てられた地域は旧開拓地で、農家が離農した荒地であり、遠くに2戸の明かりがかすかに見える過疎地であった。風が吹けば電気が止まり、雨が降らなければ断水で水洗トイレは使えず、小川の水を汲んで風呂の代用をするなど、今にして思うと想像を絶する状況にあった。しかし若い職員集団はエネルギーが満ちあふれ、笑い声が絶えなかった。開設の年に新聞、テレビで「若い札幌市職員、泥にまみれ山野開拓し福祉村つくるぞ！」と題して全道版に掲載、放映されたこともあって、意欲のある職員が各地から集まっていた。

その頃であったか、「健さんが電信柱に向かって頭を下げていた」ところを町民が見た、という情報が耳に入って来たことがあった。もともと頭の低い人であったが、精神薄弱者を心から地域住民の一人として理解して頂きたいという思いが、このような噂につながったものと私には想像することができた。健さんの信念とも言うべき、「地域こそ幸せ実現を図る原点である」というフレーズは、万人に共通できる、まさに金言であり、今の福祉時代にあっても羅針盤とも言うべき言葉ではないか、と思っている。

（以下、次号を待て！）



【社会福祉随想リレー】

社会福祉法人厚生協会の職員採用の取り組みと課題

— この5年間で新卒採用者の離職がゼロ その1 —

社会福祉法人厚生協会 儀藤 敦

1. はじめに

私が法人本部庶務課長として職員採用に携わるようになって6年目を迎えました。主に介護職を中心に新規卒業者の採用活動に当たっており、その結果をまとめたのが別表「新規卒業者の採用実績」になります。

その特徴として、1. 今年度は9名の大卒等（短大・専門学校を含む）の新卒者を採用できたこと、2. この5年間で採用した大卒等の新卒者31名中、離職者がゼロであること、この2点が挙げられます。

以下、過去5年間の法人としての新規職員採用の取り組みについて報告します。

（1）社会福祉法人厚生協会の概要

私が勤務する社会福祉法人厚生協会（以下「当法人」）は、十勝管内新得町で昭和28（1953）年に、聴覚障害者に対する授産事業を開始し、現在では聴覚障害者への支援以外に、高齢者福祉事業と旧身体障害者療護施設の運営等を行っています。職員はパート職員を含め約230人で、このうち140人程が正職員です。

（2）新得町の概要

新得町は十勝平野の西端に位置し、人口はおよそ6300人（私が新得に移住した平成11（1999）年の人口は7千5百人）です。帯広市からは車で1時間弱、札幌市からもJR、車ともに、およそ2時間の距離にあります。基幹産業は農業ですが、過疎化の中で、当法人が町内では一番規模の大きい事業所となりました。

（3）職員採用の最近の特徴

ご承知のように職員採用（特に介護職）を巡る環境は極めて厳しい状況にあります。当法人でも毎年数名の職員を採用してきました。しかし常にぎりぎり介護職員の欠員分の補充が出来たという状況が続いています。

そうした中で、当法人の最近の職員採用に関しては、先に触れた点を含め次の3点が特徴として挙げられます。

- ① 介護職の過半数を大卒者（学部を問わず）が占めていること。逆に言うと、専門学校卒等の有資格者の確保が難しくなったこと。
- ② 今年度9名の大卒等（短大・専門学校を含む）の新卒者を採用できたこと。他に高校卒を1名（聴覚障害者）採用した。
- ③ この5年間で採用した大卒等の新卒者31名中、離職者がゼロであること。

なお次号では、これらの特徴を中心に、当法人の職員採用に関する動きをお伝えします。お楽しみに。

別表

新規卒業者の採用実績

学校名	15年度	14年度	13年度	12年度	11年度	過去 10年
札幌学院	1	1			1	2
北翔大	1				1	5
北星学園	1			1		3
道教育大	1			1		2
藤女子大	1					0
札幌国際	1					0
名寄市立			2		3	5
札幌大		1		1		3
北海学園		1				1
酪農学園			1			1
医療大				1		2
東洋大				1		1
東北福祉						2
道都大						1
青森県立						1
小 計	6人	3人	3人	5人	5人	29人
		16人				
帯広大谷 短大	1		2	2	1	19
帯広コア 学園	2		1			3
会津大学 短大						1
旭川福祉 専門学校						1
日本福祉 学院						3
吉田学院 福祉						1
札幌医療 秘書						1
札幌福祉 専門学校						1
札幌社会 福祉						1
釧路専門 学校						1
オホーツク社福						1
駒沢看護 保育福祉						1
小 計	3人		3人	2人	1人	34人
		6人				
高校卒業 者(準))	1人		1人	2人	1人	8人

2015年秋季セミナーの開催について

1. と き：2015年11月7～8日（土・日）
2. ところ：道北ブロック・旭川地域（白金四季の森ホテルパークヒルズ
美瑛町白金温泉、0166-94-3041）
3. 日程
 - 1) 11月7日（土）
 - 13：30 旭川駅前集合（**JR利用者等は旭川駅西改札側のコンコース（イオン側・フードコート入口付近）**）
 - 14：30 会場受付開始
 - 15：00 会長挨拶、日程説明
 - 15：15 記念講演
「子ども子育て支援法と児童福祉」（金子恵美社大教授）
 - 16：35 特別報告
「社大及び同窓会の現状と課題」（伊藤顧問）
 - 17：00 第1部終了
 - 18：15 懇親会
 - 2) 11月8日（日）
 - 9：00 ホテル発（乗用車に分乗）
 - 10：30 北海道療育園視察
 - 11：50 昼食（誠鮨…旭川市末広東1-3-4-5）
 - 13：00 解散（駅、空港等への送り）
4. 会費
 - 1) 全日参加…12,000円
 - ・ 子どもは、年齢により金額が違います。
 - ・ 詳しくは申込み後、現地事務局より連絡しますのでよろしくお願ひします。
 - 2) 記念講演＋特別報告のみの参加…0円
 - 3) 懇親会のみの参加…5,000円
 - 4) 2日目のみ（昼食込）の参加…1,000円

* これ以外の参加形態については、申込みの際、具体的に記載してください。
折り返し、現地事務局よりご連絡し、調整します。
5. 現地連絡先等

* 今回は、市民公開セミナーではなく、これまで同様の秋季セミナーとし、道北ブロックが担当します。
現地の責任者は三上副会長、事務局担当は丸山さん（090-3774-1125）
6. その他

* 出欠は、**8月31日（月）までに**、同封葉書によりお願ひします！

★★★ 旭川までのアクセスについてのご参考に！！ ★★★

1) 飛行機利用（8月の状況、11月は多少変更あるかもしれません）

- ① 往路 羽田10:45→旭川12:20 (JAL)
羽田11:15→旭川12:50 (ADO/ANA)

* 13:00 空港出迎え

- ② 復路 旭川13:25→東京15:10 (ADO/ANA)
旭川16:40→東京18:25 (JAL)



2) JR利用

① 函館方面

- ・往路 函館06:22→札幌09:58+札幌11:00→旭川12:25
函館08:13→札幌11:47+札幌12:00→旭川13:25

* 13:30 旭川駅出迎え

- ・復路 旭川13:55→札幌15:20+札幌16:51→函館20:28

② 釧路・帯広方面

- ・往路 釧路06:26→帯広08:02→札幌10:51
+札幌11:00→旭川12:25

帯広08:48→札幌11:33+札幌12:00→旭川13:25

* 13:30 旭川駅出迎え

- ・復路 旭川13:55→札幌15:20+札幌15:43→帯広18:30
旭川15:55→札幌17:20+札幌17:28→帯広20:18
→釧路22:01



3) 上記以外のJR利用

- * 上記を参考に、独自にお出でください。なお、旭川駅の出迎えは、
13:30のみとなっています。

4) バス利用

- *各自で旭川駅まで来ていただき、13:30旭川駅出迎えです。

5) マイカー等利用

- * 14:30までに、現地ホテル集合です。

**11月8～9日（土・日）に、
旭川でお目にかかりましょう！**

旭川市ゆるキャラ
あさっぴーも
待っています



- * 以下の内容で、回答用葉書を作成してください。
- * 宛先は、「079-8418 旭川市永山8-19-1-5 丸山修司 様」です。

参加申込書

1. 秋季セミナーに、
1) 参加する
2) 参加できない で囲んでください。

2. 氏名(ふりがな) _____

住所 〒 _____
連絡先 電話 - -
ファックス - -
メールアドレス

3. 参加希望(いずれかに、○をつけてください)

- 1) 全日参加
- 2) 記念講演+特別報告のみ参加
- 3) 2)+懇親会のみ参加
- 4) 2日目の視察+昼食会のみ参加

4. 参加形態も含め、宿泊等の希望等について、以下具体的に書いてください。

[_____]

5. 近況をお知らせください!

ありがとうございました。